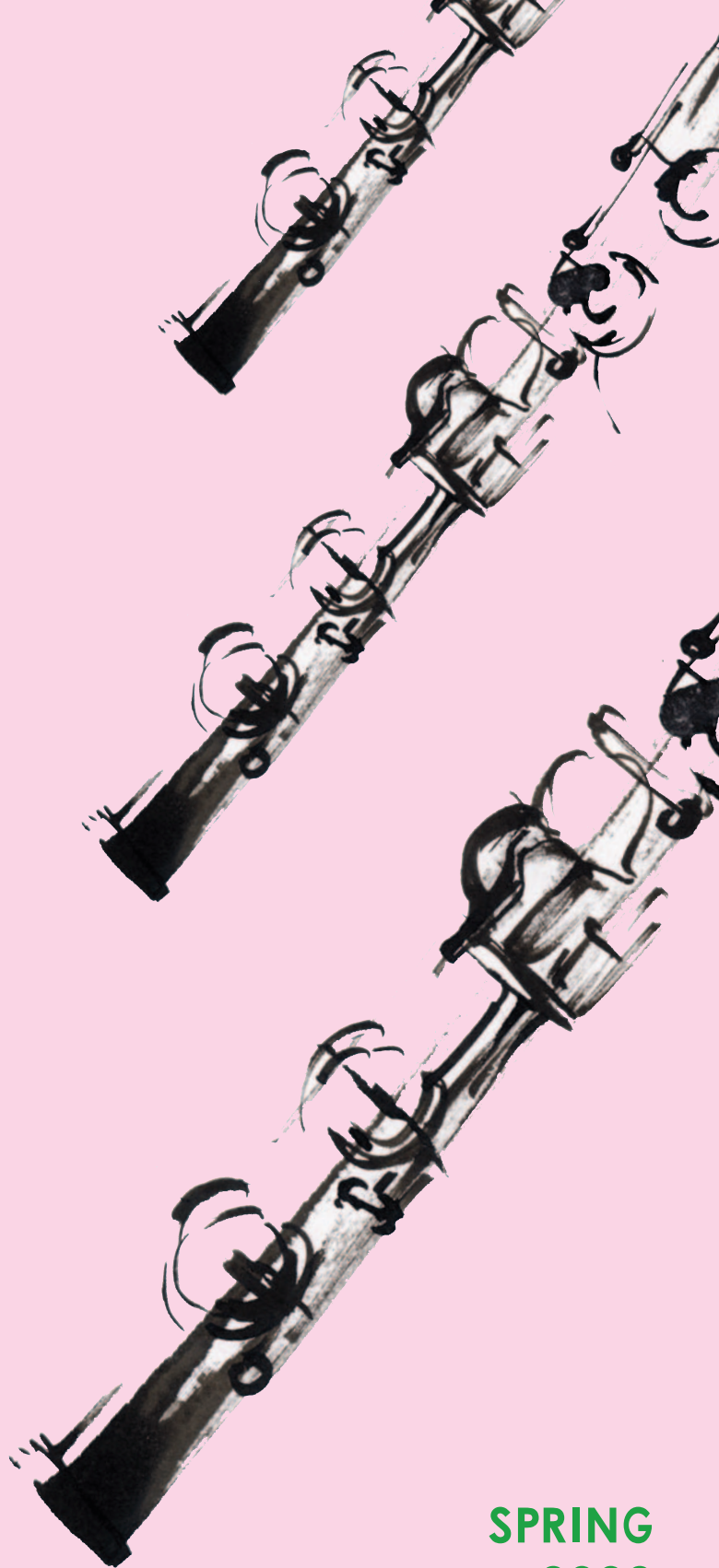


特集

舞台を彩る  
芸術家たち



SPRING  
2008  
Vol.27

文	化
の	家

この情報誌では文化の家が行う事業や文化の家で展開されるさまざまな活動を紹介するとともに町の芸術文化情報をお知らせします。

## CONTENTS

○ 特集	2
長久手の舞台を彩る芸術家たち	
○ INFORMATION	11



# 長久手の

ここ文化の家は、地域の文化活動の拠点として多くの人たちから親しまれ利用される一方、文化発信の拠点としての役割も担い、ホールでは当館の自主事業として演劇、音楽、舞踊など様々な催しを行っています。

今回は、その公演の出演者の中から、町在住者の西川まさ子さん、ダニー・シュエッケンディックさん（Grace in Motion）、町出身者の磯村純さん（流星ワゴン）にインタビューをしました。



# 舞台を彩る芸術家たち



## 西川さんに聞きました



### 西川 まさ子

西川流三世家元・西川右近の長女として名古屋市に生まれる。

1999年TARG賞受賞、2002年都市文化奨励賞受賞。現在町内に在住し、日本の伝統芸能を承継しようと、舞踊による国際交流にも力を入れている。

Q：3歳のときに、御園座で初舞台を経験したということですが、そのときのことは覚えていらっしゃいますか？

A：どういう役であったかということと、どんな様子の舞台でどうやって舞台まで行ったかという状況は、本当に断片的にですけど、覚えていますよ。それはですね、松山善三先生の作品で、「鮭」という作品があって、「生きる」ということを題材にされた作品で、その稚魚ですね。稚魚の役。最後の場面だったと思うんですけど、皆がわあっと踊って、稚魚が産まれ、産まれたての稚魚が踊っているという。

場面は、舞台が暗くって、舞台まで連れて行ってもらうのに、子どもだったから抱っこして連れて行ってもらったんですよね。水の精をしている舞踊家さんがいて、その人が連れて行ってくれました。

Q：この世界で生きていこうと心に決めたのはいつごろなんでしょう？

A：生まれたときから夜な夜なうちの母から枕元で毎晩毎晩マインドコントロールがあって（笑）。この世界で生きていこうというのは、本当に自然にですね。家業を継ぐという、もともと皆そうですよね。昔は自分のうちの家業を誰かが継ぐという仕組みがありましたから。それが好きか嫌いかということになると、嫌いだと非常に大変なんですけど、私の場合はとても好きでしたから、稽古を始める時期も自分の方から始めたいと言い出しました。

この世界で生きていこうというのは、やめるとかいうのではなくて、こういうものを継続していくという作業が不安ですよ。何でもそうでしょうけど。



### Grace in Motion

日本舞踊・尺八・ピアノ それぞれ一流で異分野の表現者のコラボレーションが行われました。西洋と東洋、古典と現代、相反する表現が違和感なく融合し、独特の美空間を作り出し多くの来場者を魅了しました。

Q：踊りをやめてしまいたいとか、逃げ出したい  
というようなことというのは、過去にはあっ  
たんですか？

A：ん～逃げ出したいとか、やめたいということ  
はないですね。やれなくて悔しくて悔しくて  
という思いは何度もありますね。

Q：西川さんにとって、日本舞踊とは何ですか？

A：なんかよくわからないですけど、それが無い  
と何にもないんですね、私には。

Q：現在取り組んでいることとか、これから取り  
組んでみたいことはありますか？

A：父母を含め、いろいろな人たちからずっと長い  
こと教わり、そして踊れるようにしてもら  
いました。踊りだけでなく生きていくとい  
うことに関してもそうですよね。たぶんど  
んな方もそうですよね。そういう中でし  
ようと思っているのは、踊りを踊ること。  
これはやはり流れていくもの、継承して  
いくものなんです。ですから今日限りで  
おしまいという観念がないんですね。達  
成させておしまいじゃなくて、達成させ  
たらその次にもまた。皆さんが喜んで  
もらった気持ちは消えて忘れていきま  
すでしょうから、毎日いろいろな出

来事があるわけで、それを忘れないように  
また見てもらい、そのときに前回のとき  
喜んでいただけのもの以上にしていくと  
いうことをずっと思っています。今日み  
たいなもの（ジャズピアノと尺八とのコ  
ラボ）は、すごく斬新というふうに思  
われるんですが、やっぱりいろんな角  
度で取り組んでいくと、日本舞踊自体  
が特別じゃなくなると思うんですよ。だ  
って日本舞踊というのは日本の中で生  
まれた日本のものなので、西洋から来  
た音楽やダンスよりも、みなさんたち  
に見てもらおう機会や触れてもらおう  
機会が少ないことが、正直言って恥  
ずかしいことなんです。そういうもの  
に携わっているものたちが高飛車にな  
って、「知らないあなたが悪いのよ」で  
なくて、そういうものをみなさんたち  
に知ってもらおう努力をすることが必  
要だと思うんです。だから今日さっき  
も音楽大学のジャズピアノの生徒さん  
が、「初めて日本舞踊見ました」と言  
われたんですけど、来てくれてよかつ  
たと思います。違うジャンルの人達と  
交流をすることによって、違う人達  
にまた知ってもらえる機会になるから  
。それを継続していくこと、次につな  
げていくということが一番の目標です  
ね。



西川まさ子さんは、芸術文化の向上と発展に努め、  
優れた業績を上げていることから、平成19年度の愛  
知県文化選奨を受賞されました。

Q：後継者の育成はどんなように考えていらっ  
しやいますか？

A：後継者の育成というのは、非常に積極的に考  
えています。踊りを教え、もちろんそれを教  
える人達をつくる。そして、私のようにこう

やってパフォーマンスをする人をつくる。あ  
とはいろいろな意味で、踊りも含めた、う  
ちの流儀も含めた後継者達を育てていく  
ことは、今非常に積極的にやっています。

Q：日頃の楽しみは何かありますか？趣味とか。

A：日頃の趣味は、踊り、というか仕事がすごく好きなんです私。自分の好きなことが仕事なので、仕事をしていることがあんまり苦痛じゃなくて。仕事をする自分と、もうひとつ普通の家族。掃除したり洗濯したり料理を作ったりという、人として当たり前のこともすごく好きなんです。機嫌が悪くなるのは、大好きな仕事をしているがために、それ（掃除、洗濯、料理など）ができる時間がないときですね。だけど嫌いなことやってるわけじゃないので、文句も言えず。というふうですから、好きなことは、本当にその休みの日に家の中で家の掃除をしたり、お庭の手入れをしたり、という当たり前のことが好きです。

Q：長久手町の印象をひとこと。

A：欲張りですけど、一番自分の好きな仕事（場）と、好きな家の環境の距離感などがぴったり合うのが長久手ですね。長久手はもう本当に居心地のいいところで、仕事場への道中に時間が長くかかるんですけど、行くときにはス

イッチオンをする時間になって、帰りにはオフをする時間になって。家の方に向かって帰ってくるのに、すごくこうホッとする感じ。一つ問題点は、家に帰ってから仕事ができないことです。家事以外の仕事ですね。踊りの仕事が家でできないんですよ。本当に家へ帰るとお稽古したいけど、この洗い物や洗濯をしちゃおうとかになってしまいます（笑）。

Q：文化の家の印象は。

A：文化の家の印象は、劇場が、名古屋の非常にハイテクな劇場と同じだけのことができる力がありますよね。非常にきれいですし、中も全体的に非常にいい建物なので、すごく私は好きですね。本当にいろいろな時に、ここを利用できるといいと思うんですけど、悩みの種は肝心のお客様がここまで来るのが難しいのかな。だから今積極的に、後継者の指導もそうなんですけど、活動していて、もうちょっと長久手を近いところに、皆さんに感じてもらえるようにしたいですよ。



## ダニーさんに聞きました



### ダニー・シュエッケンディック

ジャズピアニスト。アメリカ合衆国、ジョージア州アトランタ生まれ。26歳でジャズピアニストとしてプロデビュー。1988年から日本で本格的に演奏活動を開始。町内在住。

Q：ピアノを始めたきっかけ、ジャズを始めたきっかけは？

A：僕は若い頃にドラムスを叩いていました。ピアノは弾けませんでした。高校の2年生くら

いのときに、友だちがギターを弾いていて、2人でロックンロールをやっていました。その人はジャズも好きで、ちょっとこれも聴いてみてとジャズのレコードを貸してくれました。

ああ、こういう音楽もいいかなと思い、それがきっかけで、ジャズを聴きだして、初めてピアノの良さが分かりました。ピアノが家にあり、お父さんとお母さんはほとんど毎晩連弾で弾いていましたが、僕はピアノがかっこいいとは思いませんでした。

**Q：家族の皆さんが音楽をやってらっしゃったのですか？**

A：そうです。プロフェッショナルじゃなく、趣味で音楽をやっていました。

**Q：高校の頃からピアノを始めたのですか。**

A：いや、卒業してからですね。いつも仲間がいて、家でセッションとかやって、僕はドラムスを叩いていました。それで、集まったときにちょっとピアノ弾かせてと、そしたら知らないうちにずっとピアノを弾いていました。

**Q：若い頃はどんな音楽を聴きましたか？**

A：ピアノを始める前はロックでした。60年代後半のレッド・ツェッペリンとかクリームとかグランド・ファンク・レイルロード。そういうのが大好きでした。ジャズを初めて聴いたのは、ギターの友だちに紹介してもらった、ジョン・コルトレーンでした。本当にわけ分からなかった。けどなんとなく魅力を感じました。そして次は、マッコイ・タイナー（コ

ルトレーンのアルバム作りに参加）。彼のレコードは高校3年生の頃だったと思いますが、安売りで偶然買いました。ジョン・コルトレーンとのつながりはまだわかっていなかったと思いますが、とにかくすっごいはまった。そしてちょうどその頃に、たまたま彼がアトランタにライブに来たので見に行きました。小さな店だったので、間近に見ることが出来て、初めてピアノのパワーを感じて。だからマッコイ・タイナーのおかげでピアノを始めたと言えます。一番最初に覚えた曲も彼の曲でした。

**Q：日本を活動の場とした理由と、きっかけは？**

A：僕はアトランタで育ったのですが、20歳のときにサンフランシスコに行って、初めてこういう（ジャズピアニストの）仕事をやりだしました。サンフランシスコでライブの活動していたら、たまたま熊本のジャズライブの店からスカウトされました。それが87年でしたね。そして半年間、熊本の店でトリオ演奏をしました。それまで僕は別に日本に行きたいとは思いませんでした。当時アメリカではジャズマンがみな日本を意識していました。日本がどういう国か何も知らなかったけど、日本でジャズが人気があることはみな知っていました。だから、そういうチャンスがきたので、すぐに「はい参加します」と。



ダニーさんのピアノプレイは、ソロはもちろんのこと、ジョン・海山・ネプチューンさんの尺八演奏と西川さんの踊りを見事なまでに融合させました。

Q：長久手に住んで何年ぐらいですか？

A：もうそろそろ6年になるのかな。2002年からです。

Q：これは何かきっかけ、タイミングみたいなの？

A：名古屋（長久手を含めて）は今年4月で丸20年になります。最初は覚王山に住んでいて、そして子どもが守山区志段味のアメリカンスクールに行きました。それで覚王山からはちょっと遠いから、一社に引っ越しました。そのうちにもう1人子どもが生まれて、もうちょっと大きな家がないかと思い長久手に探しにいて、いい家を見つけました。最初は仕事場が遠いかと思いましたが、住んでみれば全然そんなことはなかった。

Q：日本の好きなところ。好きな場所や食べ物は？

A：僕から見ると、世界中で一番、英語で言うと civilized（文明の、教養のある）、また安全とか安心面で、住みやすい。和食も大好き。何が一番好きか言えないぐらいです。うちの女房のおかげで、この年で僕は今元気でいられる。だからアメリカにそのままずっといたら、体に悪い食べ物ばかり。日本に来たら、和食が好きになっちゃって、もう本当大好きで、嫌いなものがないぐらい。納豆、ゴーヤ、もずくとかなんか大好き。芋焼酎も大好き。だから食事のこと考えるともうアメリカに戻れない。帰れない。日本の和食がないとやっていけない。

Q：好きな場所はありますか？

A：場所というよりも、日本は海も山も恵まれているでしょう。僕から見ると、それがすごい魅力的。アトランタは両方ともありません。山は2時間ぐらい走らないと見られません。足助辺りの山々、日本アルプスのような立派な山はまずありません。海はもっと遠い。だから僕は、愛知県の田舎の足助から稲武までとか、その辺の景色が大好きです。しょっちゅうドライブに行っていて、そばや鮎を食べに行ったりとかしてます。香嵐溪も大好き。

Q：これからはどんな音楽をやりたいですか？

A：まあジャズはジャズです、どんな曲でもジャズにアレンジすればいい。日本の曲もいろいろやってるし、自分のオリジナルもスタンダードもよくやってる。もうジャズしかやったことない。ジャズしか弾けない。だからこれからはずっとジャズ。

Q：長久手について一言コメントを。

A：とにかく長久手は、僕も名古屋に20年いる。だからこの辺の20年前もわかってます。この図書館通りもなかったし、図書館通りができた時、すごーいと思った。グリーンロードから尾張旭まで行けるとか。約6年前ここに引っ越して、その時にまだ私達の家の前は砂利道だった。6年の間に、本当わずか何百メートルの周りで何十軒も家が建って、どんどんどんどんにぎやかになってる。これからどんどんどんどん人気が出るでしょう。応援してます。

Q：文化の家の印象は？

A：僕の近所で、すごい素敵ところで、絶対いつか演奏したいとずっと思ってたところ、やっとそういうチャンスがきた。もちろん近所のみなさんは聴きに來るから、すごい嬉しい。すごい素敵なホールで楽器（ピアノ）もいい。また演奏させていただきたいと思ってます。



## 磯村さんに聞きました



### 磯村 純

劇団青年座所属の演出家。小学校から高校まで長久手で過ごし、高校卒業後上京し大学を経て演出家となり、現在活躍中。

Q：演劇界に入ったきっかけは？

A：偶然に偶然が重なった感じですね。僕、高校は栄徳（長久手町内）に行っていて、当時コメディアンになりたいという夢があって、どうしても東京に行きたかったんですよ。とにかく大学は東京に行こうと思って、そのときにたまたまですけど、桐朋学園短期大学という演劇科のある大学があって、そこにうちの親戚が行ってまして、「受けてみたら」と言われ、親戚宅に泊まれば宿泊費もかからないし、「じゃ受けてみようかな」という感じで受けてみたんですよ。そしたら受かってしまいまして、それで東京の演劇の大学に行ったんですね。でも実際に演劇を見て、やって入ったわけではなかったです。東京に行って、そこで初めて演劇の魅力に触れました。90年、91年当時は、ちょうど夢の遊眠社さんとか第三舞台さんがすごく人気があった頃で、演劇のチケットを買うために紀伊国屋ホールの前から、新宿のスタジオアルタまで列が並んで、というくらいすごいブームでした。大学でお芝居を見ても、「面白くないな」と思ったんですけど、遊眠社や第三舞台とかを見たら、これは「俺もやってみたい」と思い始めたのが大学に入ってから半年後ぐらいでした。それまではずっとコメディアンになりたいなと思っていました。

Q：今の演劇界に思うことは？

A：演劇に関わる人間としては、演劇界がより活性化してほしいです。演劇ってものの敷居を低くするべきだと思います。入場料もかかりますので、敷居が高い印象があるじゃないですか。入場料が高いのは作るのにお金がかかるからしょうがないんですけど。お金もやっぱりかかりますし、開催も期間限定だし。それがもちろん演劇の最大の魅力でもあるんですが、ちょっと少し分かる人だけしか見ない、本当に興味のある人だけしか見ないみたいなところに偏っているような気がするんですよ。もっと門戸を広げるべきだと思いますので、僕はワークショップをやったり、学校で教えたりしています。演劇の魅力というものをより多くの方に知ってもらい、ということが必要だと思います。自分も若いですが、もっと若い方たちがどんどん出てきて、活性化していけたらいいなと思います。どうしてもマニアックなところを抜けてない、という気がし

ています。僕は優れた芸術ほどより多くの人に認められるものだと思うし、そうあるべきだと思うんですよ。多くの人に認められて、表面的に面白いものをやるとそれが、芸術的に劣ってるのかわけでもないと思うし、芸術的に高尚なものが人に受け入れられないわけでもないと思うんですよ。必ず共存するものだと。そういうふうになっていけばいいなと思いますね。

Q：演劇界で尊敬する人とか、ちょっと意識している人というのはいらっしゃいますか？

A：僕の師匠は宮田慶子さんといううちの劇団（青年座）の演出家がいらっしゃるんですが、あの人が僕に演劇というものを教えてくれたと言っても過言ではないですね。僕が入団して五年ぐらいは自分でやってたんですけど、やっぱり少し欠けていたなと思うところがあって、それを宮田さんの演出助手として何本か付かせていただいて、演劇にはこれが大事



なんだということを僕に教えてくれました。気になる人というのは、同世代の演出家、ここ（情報誌Vol.25）にもいっぱい出てますが、同世代の人は全員意識しますね。誰が面白いんだとか、この人達より面白くいたいとか、負けたくないとか、面白いことをやられるとすごく悔しいし、「あ～面白いよ～」とか、見に行ってもへこみますし、ほぼ全員気にしています。うちの劇団にも僕の下に4人演出家がいるんですけど、上には宮田慶子さん、黒岩さん、鈴木さんとかいて、やっぱりそういう人の作品が面白いとへこみますね。

Q：それこそ若いときに夢の遊眠社とか第三舞台だとか見て、やっぱり野田秀樹さんとか鴻上尚史さんとかには影響は受けましたか？

A：受けましたね。鴻上尚史さんの影響はすごく受けました。

Q：それは演出の中で出てきたりするんですか？

A：う～ん変わっちゃいましたね。それは宮田慶子さんとの出会いがあって、やっぱり人間が人間として生き生きと見えてこないといけなし、それがその役者だけが生き生きとするんじゃなくて、空気感としてきちんとその劇

場内に全部広がって、お客様とも共有できないと、劇空間に足を運ぶ意味がない。ショーでもないしコントでもない、きちんとそういう演劇っていう空気を作っていかなきゃいけないんだよ、ということを宮田さんにすごく教えられましたね。そこが僕のターニングポイントになりました。役者を持ち上げるわけじゃないですけど、役者とコラボレートする、そして押さえつけるんじゃなくて、いいものを引き出していくという手法は、本当に宮田さんが稽古場でやってらっしゃることなんですよ。僕はイメージとして、まさに灰皿を投げるようなのが演出家だと思って、「コラーっ」みたいなこともやってたんですけどね。俳優という芸術家と演出家という芸術家がコラボレートするわけですから、2人とか何人かとも高めあっていかなければ、お芝居というのはうま～く相乗効果で面白くはなっていけない。

Q：この「流星ワゴン」は重松清さんのすごく有名な小説なんですが、この演出をすることになったきっかけは？

A：これは劇団銅鑼さんからお声が掛かってやってくれないかと。ですから銅鑼さんが僕を選んでいただきました。



## 流星ワゴン

この作品は、直木賞作家・重松清氏の小説を舞台化したもので、演出を長久手町出身の磯村さんが行ったものです。公演当日は、友人を始め多くの人で賑わいました。

Q：文化の家の印象はいかがですか？

A：客席も非常に見やすいし、声の反響がすごくいいですね。この大きさの小屋でも、場所によっては声が全然聞こえない小屋もあるんですよ。でもここはすごく声が通るし、後ろ向いていても聞こえるし、こういう芝居にはぴったりだな〜と。あとロビーの雰囲気もいいです。自分なんかその、東京に行ってから演劇を始めたんで、まさかこんな身近に、こんなホールが出来たなんて、びっくりですね。

Q：長久手での思い出は。

A：悪いことばかりしてました…。青少年公園にはよく行きましたね。ロボット館とかゴーカートとか。それがなくなっていたのが、ちょっと悲しいなと思いました。あとは、家が愛知淑徳大学の方面で、あそこに森があったじゃないですか。あそこを探検して一度本気で迷ったことがあったんですよ。「本当に帰れるのか俺達は！」みたいな感じで。日が暮れる直前ぐらいに東名高速道路を発見して、「ここだここだ、生きて帰った！」みたいな。そういうことをしてました。

遊ぶところにはまったく困らなかった。現在東京に住んでいて、今の子ども達を見ると、家（長久手）は遊ぶところがいっぱいあったんだけどな、と思います。

Q：今の長久手と過去の長久手の印象は？

A：うちの周りがものすごく変わったので、すごく変わったなあ。また、通っていた学校（栄徳高校）の前までリニモが走っている。本当に変わったなあという印象ですね。あと万博も開催し、すごいなあと思いました。

Q：夢とか目標は？

A：やるからにはこの世界の頂点に行きたいですよ。まだやっぱり、磯村ってへえ〜長久手出身なんだ、誰だろうみたいな感じだと思うんですけど、やっぱり目標としては、誰もが知ってるような演出家としていい作品を作り続けて、そしてそれが世に広がって、というのが夢ですよ。仕事として演出家になる事はできましたけど、やっぱりやるからには、いつも思っています。

## ■舞台セットについて聞いてみました

Q：あの「流星ワゴン」の舞台はすごくシンプルな舞台だったんですが。

A：作家さんともいろいろ相談をしたんですが、僕は演劇の最大の魅力っていうのは、演劇って想像力の中で初めて成立するじゃないですか。映画とかテレビとかだとやっぱり映したそのものがそのものなんですけど。演劇ってのはイメージを膨らませる芸術だと、僕はいつも思うんですよ。お客様と我々作り手の間に生まれる、この空間が劇的空間であるんじゃないかと。想像力をいかに働かせるかということにいったほうが、たぶんイメージが無限に広がるように思います。だからたぶんあそこに浮かんでる絵が、みなさん違っていいと思うんですよ。ただそこに結び付けていくというか、そこに近づけていくのが僕らの仕事です。



この何の変哲もないダンボールの箱が…



車に見えたり。街角に見えたり。なんとなく不思議な舞台でした。



## 長久手こども音楽劇場 ロバの音楽座「トーナーナの音楽会」

【と き】平成20年7月6日（日）午後3時から  
 【ところ】森のホール  
 【出演】ロバの音楽座  
 【料金】全席自由  
 前売 親子券：2,500円 当日 親子券：3,000円  
       一般：2,000円 一般・フレンズ：2,500円  
       フレンズ：1,800円 学 生：1,500円  
       学 生：1,000円

※未就学児の入場は御遠慮ください



## 競馬予想屋人情喜劇「そのまま!」

一人の予想屋と彼をめぐる人々の敗者復活の可笑しくて心が温まり、そして勇気がもらえる物語

【と き】平成20年6月21日（土）午後2時から  
 【ところ】森のホール  
 【出演】ベンガル、藤谷美紀、山田まりや ほか  
 【料金】前売 指定席 一般：4,000円／フレンズ：3,500円  
           自由席 一般：3,000円／フレンズ：3,000円  
       当日 指定席：4,500円  
           自由席：3,500円

※未就学児の入場は御遠慮ください



## 平成20年度フレンズ会員募集

平成20年度文化の家フレンズの会員を下記のとおり募集しています。

### ●会 費●

個人会員	年額1,500円(ただし、10月1日以降に入金の場合は1,000円)
家族会員(個人会員と住所を同じくする人)	年額1,000円(ただし、機関紙・事業案内などの郵送は省略させていただきます)
法人・グループ会員	年額15,000円(ただし、10月1日以降に入金の場合は10,000円)
※会員の有効期限は、4月1日から翌年の3月31日までです	
※年度の途中で入金する場合は、入会日から最初に訪れる3月31日までになります	

### ●特 典●

1	文化の家自主事業チケットの割引(10%程度割引、原則会員1人につきチケット2枚まで、法人・グループ会員は20枚まで)
2	文化の家自主事業公演チケットの先行発売
3	機関紙、情報誌、事業案内などの刊行物郵送
4	フレンズが行う文化事業、交流事業への参加

【申込方法】文化の家事務室にて、所定の用紙に住所、氏名、電話番号を記入の上、年会費を添えてお申し込みください。

## フレンズスタッフ募集中

フレンズスタッフを常時募集しています。フレンズスタッフはホールスタッフなど、文化の家をサポートする活動やフレンズが行う交流・研修などの催しに参加していただけます。



フレンズは毎年2回の自主公演を企画・実施しています。当日は自分たちも楽しみながらも、真剣な会場案内やチケットもぎりなどを行っています。

## 編集後記



少々古い統計ですが、平成12年度の国勢調査によると長久手町には文芸家・芸術家・芸能家として就業する人が461人いました。人口4万余の町にしてはかなりの数で、7年を経た今日ではもっと増えているかも知れません。多くは日本舞踊の西川さんやジャズピアニストのダニーさんのようにこの町に移り住んでこられた人たち、また県芸大など芸術系大学の関係者、とりわけ卒業後も町内に留まって苦闘する若いアーティストたちも含まれていると思われます。もちろん町出身の方もいて、演出家磯村さんのように里帰りして中央での活躍ぶりを見せてくださる方や、郷里にあって全国区的な芸術活動を展開するアーテ

ィストもおられます。

文化の家の活動はこうした大勢の身近な存在のアーティスト達によって支えられています。平成19年度の音楽・演劇・舞踊などホール系の自主事業46本のうち半数の23本は地元のアーティストを中心としたいわば地域密着型の公演でした。このなかには愛知芸大とその卒業生達による10公演も含まれています。美術系を加えるとこうした数はもっと増え、昨秋の第1回「ながくてアートフェスティバル」は町内在住の30名近い造形作家と県芸大の参加もあって、美術系でも元気のいい町を強く印象づけてくれました。

文化の家 館長 川上實

# 事業のご案内

## 5月 May

24日(土)

映像鑑賞会「シッコ」

①午前10時から

②午後2時30分から 風のホール

25日(日)

提携事業 長久手フィルハーモニー管弦楽団第10回定期演奏会

午後2時30分から 森のホール

曲目: マラー交響曲第1番ニ長調「巨人」ほか

## 6月 June

14日(土)

映像鑑賞会「明日に向かって撃て！」

①午前10時から ②午後2時30分から 光のホール

21日(土)

競馬予想屋人情喜劇「そのまま！」

午後2時から 森のホール

出演: ベンガル 藤谷美紀 山田まりや他

## 7月 July

6日(日)

長久手子ども音楽劇場

ロバの音楽座 「トーナドーナの音楽会」

午後3時から 森のホール

19日(土)

長久手子ども劇場 人形劇 ねぎぼうず SAYO 赤ずきん ほか

午後2時30分から 舞踊室

26日(土)

映像鑑賞会 「アニーホール」

①午前10時から ②午後2時30分から 光のホール

## 8月 August

2日(土)

長久手子ども劇場 演劇人冒険舎「ねがいごとパズル」

午後5時から 風のホール

3日(日)

フレンズのつどい Vol.19 錦織健コンサート

森のホール

22日(金)

松田奈緒美ソプラノ・リサイタルwith大藪祐歌(ピアノ)

午後7時から 森のホール

## 9月 September

10日(水)～15日(月祝)

第5回長久手国際オペラ声楽コンクール

森のホール

28日(日)

提携事業 愛知県立芸術大学「室内楽の楽しみ」

森のホール

## 10月 October

4日(土)

デュルシネア・ラングフェルダー日本ツアー2008

「ヴィクトリア」

森のホール

11日(土) 12日(日)

提携事業 公門美佳ダンス公演Ⅱ(仮)

風のホール

26日(日)

提携事業 Mens La コンサート

森のホール

29日(水)

開館10周年記念公演

秋吉敏子 ジャズトリオ・コンサート(仮)

森のホール

## 11月 November

3日(月祝)

トリオ・カルロ・ヴァン・ネスト(ピアノ三重奏)

森のホール

23日(日)

長久手フィルハーモニー管弦楽団演奏会

森のホール

29日(土)

小林仁 編曲・作曲によるピアノデュオコンサート

森のホール

## 12月 December

7日(日)

青年劇場「博士の愛した数式」

森のホール

13日(土) 14日(日)

提携事業 愛知県立芸術大学大学院オペラ

「フィガロの結婚」(原語上演/字幕付き)

森のホール



## 長久手町文化の家

〒480-1131

愛知県愛知郡長久手町大字長湫字野田農94番地1

tel.0561-61-3411 fax.0561-61-2510

<http://www.town.nagakute.aichi.jp/bunka/bunka/salon/index.html>

### 交通アクセス

- 地下鉄東山線藤が丘駅下車、「リニモ」はなみずき遊園下車、徒歩7分
- 地下鉄東山線藤が丘駅から車で5分
- 地下鉄東山線藤が丘駅下車、名鉄バス5番乗り場、長久手郵便局下車、徒歩8分
- 地下鉄東山線藤が丘駅下車、Nバス[Cルート]長久手郵便局下車、徒歩8分  
[Fルート]文化の家下車すぐ
- 名鉄バスセンターから名鉄バス、長久手車庫行き、西島下車徒歩5分
- 東名高速道路名古屋インターから車で10分

※ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。

